

無明

和樹

御遠忌テーマ

親鸞さま、なぜ、お念仏なの？

— 出会おう、語ろう、今ここで！ —



自分ということ

親鸞さまは自分のことを言うのに、「罪悪深重・煩惱熾盛の衆生」と言いますよね。自分というのは自分の身で負えないほどの業を背負ってる、「どうしようもない者がここにおった」ということを言うわけです。

知らぬうちに僕らの毎日はこの世の中の常識の中で暮らしています。そのことは大事なことですけど、自分ということが問えなくなってしまうってわけです。

親鸞さまは、罪悪深重のものを背負っているから、こんな身が修行をして仏になろうとすることもできない、と。だから、修行ということがないわけです。それに対して、道元さんという方は「ともあれ修行せよ、全身心をかけて修行せよ」と言うわけです。

道元さんは「草木叢林の無常なる、すなわち仏性なり、人物身心の無常なる、これ仏性なり」とも言う。僕らの普通の思いでは「この間、正月だったのにもう梅が咲いて、早いね」とか「ついこの間30超えたばかりなのに、もうこんなおっさんに

なつてしまつた」とかね、そういうことで無常を感じるわけです。無常っていうのは自分が感じる問題だと思ってる。

でも仏教で言う無常っていうのは、無常が主体なわけです。無常としてある中にこの「オレ」って言っている者がおる。梅なら、梅の木が今花咲いていることで「梅」っていうことを思う。でも人間が「梅だ」と思う前に、「梅」とも言えないものがここに

おるわけです。これ（自分）

清浄なるもの

村田和樹先生

石川県輪島市・龍昌寺住職(曹洞宗)

2019年2月9日

も同じです。「オレは修行ができる身でない」とか言う必要がない。そのまま、これ（自分）が無常として、仏性としてあると

修行寺にて

僕が世話になっていた修行寺では、毎日9時間座ります。朝5時から8時まで座り、終わると掃除してご飯食べて、また9時から12時まで座る、昼から5時まででは作務の時間ですけど、大概みんなに見えんようにして

「何にも考えるな」って言われ

ても、何にも考えないことなんて、そんなのできやしないです。妄想ばかりです。妄想が止んだらね、眠ってるんです。眠って目が覚めたら、ぼんやりして

てるんです。その3つの繰り返しです。老師は「勉強するな」って言うんです。「ただ座れ」と。「座つてからどうするんですか」と聞くと、「10年ただ黙って座

れ」と。10年終わったら、「更にもう10年」って言うんです。20年経ちました。そして老師は「更にもう10年座れ。30年経ったら文句も出んだろ」と言うんです。

僕、座り始めてから50年経てるんですけど、相変わらず「妄想する、眠る、ぼんやりする」の繰り返しなんです。そして、意味も理由も通用しない者がここにおったということですね、頭では未だにさっぱりわけわからんです。道元さんは、修行して仏にならないっていうことを、「修証一如」「証上の修」と、「修行と証（さと）り」と一緒だぜ、そのまま、そのままとしてあるんだぜ」っていうことを言うわけです。

近代的自我

昔は、神様がおられてはじめて個（わたし）ということが成立し、個ということの意味を持たたわけです。だけど、今の僕たちは、神様という存在、上位概念がなくなった世界で生きています。そうした近代的自我は、自分で意味、理由を見出していかなくなりました。自分で意味、理由を探したら、お金とか能力

